

工賃が減少した事業所に多く当てはまる特徴

○作業について

- ・ 同じ作業を継続

⇒作業への慣れにより生産量は安定しやすいが、高齢化や障害の重度化によって生産量が徐々に減少してしまう場合がある

⇒日々同じ作業であるため、作業効率化を図るきっかけが少ない

- ・ 新規開拓のきっかけが、既存作業の作業量減少によるもの

⇒利用者への工賃支払いのため急ぎ生産収入を上げる必要があり、すぐに作業が可能である簡易な内職（安い単価）の作業でも受注するしかない状況になってしまう

- ・ 受注している作業の種類が少ない

⇒1つの発注企業によって工賃に大きく影響してしまうため変動が起きやすい

○利用者について

- ・ 利用者の作業能力問題

⇒作業能力の問題から生産量を増やせない、新規開拓ができないなどの意見が多く挙がった

<考えられる可能性>

- ①障害の程度などによる利用者自身の能力的問題の場合
- ②できる作業のみを見ている（やればできる作業が見えていない）場合
- ③作業の要求レベルが高い場合（必要以上の要求、作業内容の難易度など）

(参考) 工賃が減少した事業所のアンケート結果

①昨年度から新たに取組んだこと、工夫したことがある。

⇒ 「ある」：14事業所 「ない」：1事業所

②令和5年度から令和6年度にかけて、利用者の状況は？

⇒ 「増加」：5事業所 「減少」：2事業所 「増減なし」：8事業所

③工賃向上に対する事業所としての課題

選択項目	回答数	回答割合
受注量の不足	6	40.00%
低額な受注単価	7	46.67%
作業をする利用者の人数不足	4	26.67%
利用者の事情（高齢化等）	12	80.00%
支援者の人数不足	3	20.00%
支援者の技術不足	4	26.67%
外的要因（物価高等）	8	53.33%
福祉サービスの優先	2	13.33%
ノウハウの不足	3	20.00%

④県への要望事項

選択項目	回答数	回答割合
財政的な支援	8	53.33%
「割のいい」案件の紹介	12	80.00%
他事業所の事例の紹介	5	33.33%
他事業所との交流・情報交換	3	20.00%
経営に関する研修会等の開催	2	13.33%
農福連携に関する支援	1	6.67%

※③④は複数選択制のため、それぞれの回答割合の最大数は100%となります。